

活動報告

団体名	NPO 法人 逢桜の里
活動名	令和2年7月豪雨災害被害者に寄り添った活動
活動期間	2020/07/04~2020/08/31
活動の成果	<p>相良村では発災翌日に活動を始めたため早々に物資の支援は整ったというご意見を聞いた。役場の担当者にニーズの把握をしながら、物資の提供では必要なものを必要な数必要なところへ届けることができた。相良村では炊き出しの支援が行われていなかったため、温かいもの、野菜の多いもの、また生ものではなく火が通ったものを衛生管理、コロナ対策をして行い大変好評をいただいた。瓦屋町の高齢者の民家は1回全部が浸かって10日以上何もできず手付かずで、固まった泥をかき出した。ゴーグル、マスク、ヘルメットでの作業は10数分で体調を崩す状態で、少しずつ復旧に取り組んだ。坂本町川岳保育園は2階まで水に浸かり、隣接するお寺もあわせて大きな被害が出ており多くのボランティアが集結していた。泥のかき出しだけでなく、瓦屋町の教訓によりボランティアのかき氷支援も組み込み、マンパワー維持に努めた。坂本町本田商店では他団体と合流し、倉庫の泥のかき出しとボランティアへのかき氷支援を行った。交通が寸断されひと月が立っているため商品や什器などが泥とともに固まり泥のかき出しは容易ではなかった。坂本町下青井地区の自宅兼工場も被害が大きく雨で泥は水を含み集めづらかったが、徐々に復旧した。重機でないと対応できない状態であったがマンパワーでできる範囲の泥のかき出しを行った。荒尾はご支援が少なかつたため生活物資支援（ナフキン、使い捨てカップ、タオル、麺類、卓上カセットガスコンロ他）を大変喜ばれた。川岳保育園では保育士さんたちの生活再建に取り組む環境ができた。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>「災害ボラサポ・令和2年7月豪雨」助成いただき心より感謝申し上げます。熊本は2016年の熊本地震に続いて大きな災害に見舞われており、熊本で活動させていただいている当団体としては、このように活動を支えていただける助成を大変心強く感じております。災害はどなたにも突然来ます。日ごろからのコミュニケーションで命が助かることが現実あります。人のネットワークや口コミのネットワークで救助の手が届くことがたくさんあります。私たち逢桜の里（あいらのさと）はこれからも地域のつながりの大切さを伝えていく活動を続けてまいります。変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。</p>

(活動のようす)

